



三つの町が一つになるまでに、
いくつものドラマがありました。

Introducing
the history
of SETANA

平成17(2005)年9月1日、大成町、瀬棚町、北檜山町の3町が合併し、せたな町は誕生しました。
蝦夷地が「北海道」に改称された明治2(1869)年に、久遠郡、瀬棚郡、太櫓郡として始まった各町には、幾多の統合・合併を経て、世代を超えた155年にわたる物語が紡がれてきました。

瀬棚町

SETANA

- 明治2(1869)年
セタナイ場所改め1郡5ヶ村(瀬棚郡・瀬棚村・梅花都村・中歌村・虻羅村・島歌村)となる。
- 明治13(1880)年
瀬棚村戸長役場を設置。
- 明治30(1897)年
瀬棚村より利別村(現在の今金町)分村。
- 明治35(1902)年
2級町村となり、瀬棚ほか4ヶ村(梅花都村・中歌村・虻羅村・島歌村)合併、瀬棚村となる。
瀬棚村より東瀬棚村(現在のせたな町北檜山区)分村。
- 大正10(1921)年
町制施行に伴い、瀬棚町となる。



北檜山町

KITA HIYAMA

- 太櫓村
- 明治2(1869)年
松前藩士和田一兵衛の知行地・太櫓場所が太櫓郡となる。
- 明治39(1906)年
太櫓村・古櫓多村・良瑠石村・鵜泊村の4村が合併して2級町村となり、太櫓村となる。
- 東瀬棚村
- 明治35(1902)年
瀬棚村から分村して東瀬棚村となる。
- 昭和28(1953)年
町制施行に伴い、東瀬棚町となる。
- 昭和30(1955)年
東瀬棚町と太櫓村が合併して、北檜山町となる。



大成町

TAISEI

- 明治2(1869)年
太田村・上古丹村・一艘澗村・三艘澗村・日方泊村・湯ノ尻村・平田内村・貝取澗村・長磯村の9村が久遠郡となる。
- 明治14(1881)年
一艘澗村・三艘澗村・日方泊村が合併し、久遠村となる。
- 明治35(1902)年
太田村・上古丹村・久遠村・湯ノ尻村が合併し、久遠村となる。
- 大正12(1923)年
平田内村・貝取澗村・長磯村が合併し、貝取澗村となる。
- 昭和30(1955)年
久遠村と貝取澗村が合併し、大成村となる。
- 昭和41(1966)年
町制施行に伴い、大成町となる。



500年あまりの時を経て人々を惹きつける、 北海道最古の霊場

参道の険しさから、「日本一危険な神社」とメディアで取り上げられている、太田神社(大成区太田)。
 約580年の歴史を持ち、本殿は「北海道最古の山岳霊場」と呼ばれる
 太田山(標高485m)の8合目付近、断崖絶壁の洞窟の中にあります。
 近年は、自然の中でのアクティビティーや多様な文化に触れる体験型観光「アドベンチャートラベル」の
 ニーズの高まりとともに、国内外から注目を集めています。

「航海の神様」の信仰を集める 人々の心のよりどころ

航海の安全と豊漁の守り神として、室町時代の1441~1443年にかけて創建されたと伝わる太田神社。松前藩の開祖である武田信広公が、1454(享徳3)年に太田山踏査の際に洞窟内に霊神がいると信じて「太田大権現」の尊号を贈り、広く人々に伝えたのが始まりといわれています。

1818(文政元)年に洞窟内に小祠が建立され、1867(慶応3)年には山麓に拝殿を造営。大日如来が安置されました。1871(明治4)年、神仏習合禁止の布令により太田権現の仏体・仏具を撤廃(廃された仏具は、現在太田地区の「潮音寺」に安置)。猿田彦大神を祀り、太田神社と改称しました。1993年には、大日堂が北海道南西沖地震で被災しましたが、1996年に再建され、仏像、仏具が安置されています。また、拝殿横の崖に立つ道内最古(1857年建立)の灯台「定燈籠」も復元され、海の安全を祈る人々の思いを灯し続けています。

かつては陸路ではたどり着くことができず、



人々は太田山麓まで舟で渡り、聖地を目指しました。現在は「道南五大霊場」の一つとして、多くの参拝者が訪れています。

社にゆかりある円空仏

1666(寛文6)年には美濃国の僧である円空上人がこの地を訪れ、洞窟内で仏像を彫ったと伝えられています。1778(安永7)年に訪れた甲斐国の僧・木喰上人は、円空仏に感動し、自らも仏像を彫ったといわれています。このほかにも江戸時代の旅行家・菅江真澄、探検家・松浦武四郎も訪れており、拝殿近くに残る歌碑などでその歴史に触れることができます。

二人の僧が作った仏像は、その後焼失、紛失してしまいましたが、円空ゆかりの地である岐阜県丹生川村の「円刀会」の会員が大成区の杉で3体を復元。太田神社拝殿近くの保管施設に展示しています。

資料館で先史からの歴史をたどる

町内には先史時代の歴史も残り、多数の遺跡が見つっています。北檜山区には24カ所の遺跡があり、「豊岡6遺跡」では縄文時代早期(8000~6000年前)の土器などが発掘されています。瀬棚区では、続縄文時代(約2300~1300年前)の大遺跡として有名な「南川遺跡」など18カ所に点在。縄文時代



前期(約6000~5000年前)から人が住み始めたことが解明されています。大成区では、縄文時代前期から採文時代(約1300~800年前)の遺跡が30カ所確認されており、「都遺跡」では、アスファルトが付着した石鏃が見つかることから、東北の文化圏との交流が示唆されています。

町情報センター2階にある「北檜山郷土資料室」や瀬棚区の「生涯学習センター郷土資料展示室」、大成区の「大成郷土館」には、遺跡で発掘された土器や石器をはじめ開拓期の民俗資料が多数保存・展示され、往時の暮らしをしのぶことができます。

